



最優秀賞

広島県遊技業協同組合

「『体育の日記念スポーツ大会』運営支援」事業



広島県遊技業協同組合 理事長
池田仁志さん

選考理由

社会貢献活動審査委員会 委員
松尾寿人氏



「体育の日記念スポーツ大会」の運営資金の大半を昭和57年から27年間にわたり支援(累計1億800万円)。継続する効果もあり、県下小中高生ら約7千人が参加する大きなイベントとなった。組合役員が多くが本行事に率先出席し、組合員がボランティア参加で行事進行の支援をするなど達成感を共有し、モチベーションアップにもつながっている。青少年健全育成への地道な活動ではあるが、地域の認知度、期待度を含めてその社会的評価は高い。

子どもたちを中心に7000人が参加す



子どもたちの真剣な表情が大会の原動力



(財)広島県教育事業団から組合へ、感謝状が贈られた

昭和50年代中頃、中学校・高校を中心に教育の現場が大荒れになったことがある。子どもたちが非行に走り、授業ができないというケースも多々見られたのだ。広島県でも同じような状態で、それとともに子どもたちによる犯罪数も増加していったという。象徴的に昭和57年に「積み木くずし」という書籍が発売された。

こうした状況の中、広島県遊技業協同組合(池田仁志理事長)では何とかして子どもたちの健全な育成に貢献できないかという声が高まっていた。そこで企画されたのが「体育の日のスポーツ大会」である。第1回目はまさに昭和57年に開催され、以後、今日までずっと続いている。

平成20年度は10月13日の体育の日、広島県総合グラウンド内の3つの会場で開催され、県下の小・中・高校生ら約7,000人が参加した。内容も多岐にわたり、「スポーツ大会」としてはドッジボール、ミニテニス、軟式野球、ラグビー、そして陸上などが行われた。また「スポーツ体験会」として、体力測定会や、キッズスポーツランド、エアロビクス入門、水泳無料体験、グラウンド・ゴルフ交流会などがあり、あわせると30近いメニューがある一大イベントになっている。

運営の主体は広島県教育事業団で、県遊協は資金的な面を支援しているが、役員10人のほか、25人が進行

る大スポーツイベントが、青少年の犯罪の半減にも大貢献



ドッジボール大会は人気のイベントになっている



熱戦が多かったバスケットボール大会



開会式で話を聞く子どもたち

や応援のために参加している。ラグビー場で行われた開会式では池田 理事長が祝辞と選手への励ましを述べた。池田 理事長は教育に非常に熱心で、同大会以外のサッカー大会などにも出席して、次のように子どもたちに話しかけている。

「皆さんがスポーツを通じて、ルール、連帯、友情を学び、暴力のない社会になることを切望します」

この言葉は、子どもたちの健全育成の手段として、県遊協がスポーツを選択した理由そのものである。スポーツの中に人として学ぶべきものが凝縮されていると考えているのだ。

「単に子どもたちが喜ぶというだけであれば、ゲーム大会でも良いわけですが、それでは輪が広がりません。汗をかいて、努力して苦しんで、その中でルールを学び、役割を学び、チームワークの大切さを知ることができる。また見ている人にもそれが伝わり、感動を与える。こうした総合的な魅力がスポーツにはあるのです。なによりも子どもたちの顔をみればわかります。いきいき、はつらつとして、こちらも見ているだけで嬉しくなってきます」(同組合事務局)

開会式では各イベントでの優秀者に贈られるトロフィーなどの記念品が組合から、広島県教育事業団に渡される。昨今の運動会などでは順序をつけないようなケース

もあるが、順位をつけるからこそ目標に向けてがんばり、悔しさをバネにすることができる。また、子どもの頃に競争することを教えず、突然、入試や実社会の競争にさらされたら耐えられない子どもでてくる。同組合ではそのように考えている。

このイベントは当初子どもだけを対象としたものだったが、20年を経るうちに、一般の誰もが参加できるようメニューも増えてきた。リズム体操やエアロビクス、ヨガ、卓球、ソフトバレーボール、トランポリンなどだ。そのためスポーツ会場は世代間交流の場にもなってきた。

「広島県内では老若男女にかかわらず、誰もが楽しみにしているイベントに育った」と組合は自負する。第1回目に参加した子どもたちが成長して親となり、子どもといっしょに参加することもあるという。また当初の目論見どおり、広島県内の青少年の犯罪件数も半減したそうだ。

2008年2月には長年にわたる社会貢献活動が高く評価され、藤田雄山 広島県知事より感謝状が贈られた。イベント運営の資金は同組合の「善意の箱」がベースになっている。

「昨今の経済状況の悪化から運営も厳しさを増しているが、県民の期待はますます高まり、とうてい止めることはできない」と同組合では考えている。